



全国産業教育振興大会が福井市で開催されました。福井県は恐竜の化石が発掘されることで有名です。福井駅ではたくさんの恐竜が迎えてくれました。

恐竜の生き残り術に学ぶ

大会では福井県立恐竜博物館の一島啓人副館長が「恐竜が福井をのし歩いていた頃」を演題として講演されました。

それは、1億年前の話です。恐竜は体が大きいというイメージがあります。そんな恐竜がどのように栄養を摂取し、生命を維持していたのか不思議に思います。

一島副館長の話によると、恐竜の骨はスカスカで体積の割に体重は軽かったそうです。また、気嚢(きのう)という鳥と同じシステムをもっており、空気を吸うときも吐くときも肺で酸素を吸収することができる構造になっていたそうです。鳥は恐竜から進化したものとされていますが、この構造を鳥は恐竜から受け継いでいるのですね。さらに、体が大きいことから、変温動物だったとしても体内の温度が逃げにくく、結果として体温が下がりにくいことが考えられるそうです。このような特徴から、摂取栄養が少なくても、大きな体の恐竜でも生き延びることができたことが分かりました。

皆さんも社会人となれば、職場や社会の環境に対応できる能力を身につけなければ、いくら素晴らしい能力を持っていたとしてもその能力を発揮する機会に出会えないかもしれません。世の中の移り変わりが速くなっていることは高校生の皆さんにも感じられることと思います。何か新しいものができたとき、それに慣れた頃にはもう次の新しいものが広まりかけていたりすることがあります。これからの社会を生きていくためにはこの世の中の変化に対応できることが必要です。



この力は待っていても身につきません。自らが関心を持って取り組んでいくことが必要です。今年は多くの卒業生の方に会うことができました。皆さんが共通してお話になるのは、「これからの時代は自ら学ぶ力が必要」ということでした。先輩のアドバイスを参考に、あなたは来年どんなことに取り組みますか。新年は新しい目標を設定したり、挫折した目標に再チャレンジするには良い節目の時です。

恐竜が環境に適応して長い間生きてきたように、あなたもこれからの社会に適応するための行動を冬休みの間に考えてみてください。

校長 松川 明義

【行事予定】 19日(火)～21日(木)：懇談会
20日(水)：教育相談 LHR(1年 W、C)
22日(金)：終業式
23日(土)～24日(日)：第2種電気工事士技能試験
週末の大会 演劇部 中国演劇発表会 12/23～12/24

